

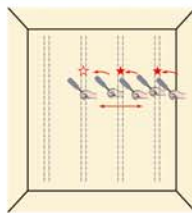
# わが家の備えを再確認

## 家庭でもう一度、安全点検をしましょう

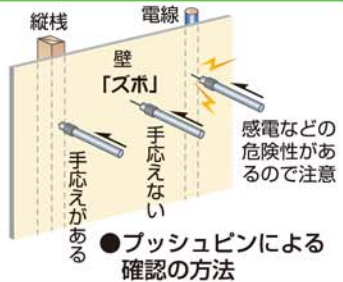
### 固定できる壁の探し方



壁の内側の桟を探するには、ドライバーの柄などで壁をたたいてみます。より正確に桟の位置を見付けるためには、下地探知用センサーやプッシュピンを活用します。



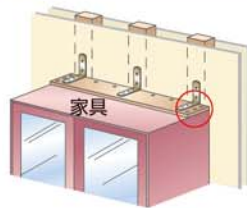
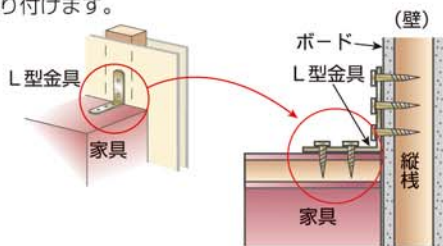
**●ドライバーでたたいて探す方法**  
横方向にたたき、コンコンと硬い音がする場合は、縦桟の可能性もあります。硬い部分に印(★)を付けて、印2点間の距離を測定します。等間隔に印があることが、チェックポイントです。



※壁によっては固定のできない壁もあります。

### 壁の桟と家具の桟をL字金具で固定

家具の上部ならどこでもよいというわけではなく、両端部分の家具自体の桟が確実に入っている位置に金具を取り付けます。



板を渡して家具の両端と奥に固定

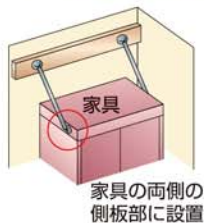
### ●家具の桟の幅が短くて木ネジが固定できない場合

家具の幅や置きたい場所に合わないときは、家具の高さに合わせて、横木を壁の桟に取り付け、L字金具で家具を固定します。



### 桟に固定できない場合の固定方法(壁の中に桟がなく、やむを得ない場合)

家具の上部が、鴨居や横木から離れていてやむを得ずベルトやチェーンなどを使って固定する場合は、家具の側面に30度以下の角度でピンと張ります。たるみがあると効果はありません。



家具の両側の側板部に設置

突っ張り棒タイプのものを利用するには、天井に家具を支えるだけの耐力がないと危険です。しっかりと天井でも天井とのすき間が少なく奥行きのある家具でないと、大きな効果は期待できません。



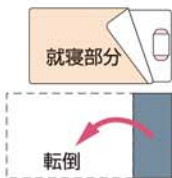
高さを調整しながら天井と家具を支える上置型すき間埋め収納ユニットを利用します。



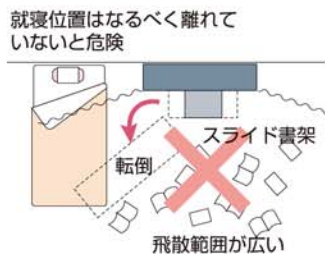
### 家具の配置にも工夫を

室内の家具の配置は、万一、大きな揺れで転倒した場合に、大けがをしたり、部屋に閉じ込められたりしないように、安全という面から家具の置き場所も工夫しましょう。

家具との関係で安全な就寝の位置は、家具の側方です。もしも家具の前方に就寝する場合は、家具の高さ以上に十分な距離をとります。スライド書架付きの本棚は安定が悪いので、就寝の位置からなるべく離れた方がよいです。



就寝位置は家具の側方がよい



就寝位置はなるべく離れていないと危険



ピアノにはキャスターが付いているため、確実な移動防止が行われている場合以外は、就寝の部屋には置かない方がよいです。

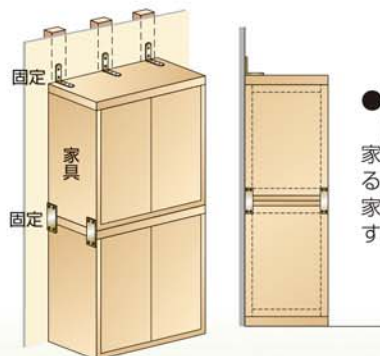


台の上に乗せたテレビやパソコンなどは飛び出す可能性があるため、就寝位置、特に枕の位置には注意してください。

就寝位置が正面の場合は家具の高さ以上に十分な距離をとる



部屋の出入口付近に家具を置くと、家具の移動や転倒、収容物の散乱などによって、避難路が遮られることがあるので、なるべく家具を置かない方が安全です。



**●積み重ね家具の固定方法**  
家具の内側で固定する方法もあるので、家具の専門家に相談するとよいです。

引用：地震による家具の転倒を防ぐには (家具の転倒防止対策に関する検討委員会作成)